



『東北圏だより』

新たなステージ 復興・創生へ

宮城復興局

東日本大震災から5年が経過し、平成28年3月に集中復興期間が終了し、新たなステージとして復興・創生期間が4月から始まりました。

基本的な考えとして、地震・津波被災地域において、10年間の復興期間の「総仕上げ」に向けて、多様なニーズに切れ目なく、きめ細かに対応していくとともに被災地の自立につながり、地方創生のモデルとなるような「新しい東北」の姿を創造していきます。

女川町中心部商業エリア、岩沼市玉浦西地区等、各地でまちびらきが行われています。

宮城県内の災害公営住宅、民間住宅等宅地(防災集団移転促進事業等の面整備事業)の平成28年2月末時点での完成実績は、災害公営住宅が8,659戸、民間住宅等宅地4,163戸となっています。

平成28年度末までに公営住宅が概ね13,900戸(概ね9割)、民間住宅等宅地が概ね8,200戸(概ね8割)供給される見込みとなっています。

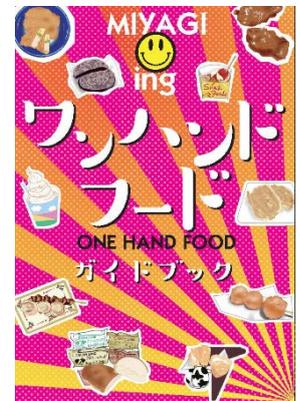


▲女川町商業エリアのまちびらきの様子

宮城復興局の女性職員4人が中心となり、被災自治体に頻繁に通う職員約60人のアンケートから、被災した宮城県沿岸部で人気の片手で気軽に食べられるグルメ10品を紹介する「ワンハンドフードガイドブック」を制作しました。

駅や観光案内所に置いてありますので被災地を訪れた際にぜひ食べてみてください。

宮城復興局としては、被災自治体に寄り添いながら、復興の加速化を進めて行くため様々なハード、ソフト施策を進めて行きます。



ワンハンドフードガイドブック▲

『秋田県仙北市』、『山形県長井市』が手づくり郷土賞に選定されました。

東北地方整備局

全国各地において、地域づくりに取り組む活動団体等の優れた地域活動を表彰する「手づくり郷土賞」は、平成27年度で30回目の開催となる国土交通大臣表彰制度です。

節目の回である今回は、一般部門について初めて各団体がプレゼンテーションを行う公開審査会が実施されました。その結果、東北からは、秋田県仙北市『癒しの溪流づくり～生保内川の自然と防災～』（NPO法人「癒しの溪流・里・まちネット」）と、山形県長井市『最上川フットパス～かわからまちへ、まちからかわへ～』（長井市かわまちづくり推進協議会）の2件が選定され、両市で認定証授与式が開催されました。

『癒しの溪流づくり～生保内川の自然と防災～』（NPO 法人「癒しの溪流・里・まちネット」）

秋田県仙北市にある生保内川大暗渠砂防えん堤は、地元医療・福祉関係者を交えた検討会等でのユニバーサルデザイン化の提言を受け、平成 17 年度に完成しました。同年度より「癒しでウォーク」が開催され、車いすの方や幼稚園児を含め、毎年 100 名以上の人たちが水辺や森林ウォークを楽しみながら交流を深めています。また総合学習として、砂防探検隊等多数の団体の活動の場となっています。さらに環境と災害をテーマとした市民レベルでのフォーラム等をこれまで 7 回開催し、自然とのふれあい、地域の防災意識向上に努める活動が続けられています。



▲ 認定証授与式の様子



▲ 世代間を超えて交流を深める参加者

『最上川フットパス～かわからまちへ、まちからかわへ～』（長井市かわまちづくり推進協議会）

長井市はかつて「最上川舟運」の港町として栄えましたが、その歴史や文化等を観光に活かしきれれていませんでした。川辺を歩くことを楽しむ道「フットパス」が整備されたことに伴い、平成 21 年度に観光協会や商工会議所などから組織される約 50 人の協議会が設立されました。活動内容としてルートの実地調査を実施し、フットパスマップを作成しています。また、平成 24 年度からはフットパスを歩くイベントを開催し、参加者数が年々増加しています。本イベントの実施により、フットパスの認知度が上がり、河川利用者数も増えています。



▲ 認定証授与式の様子



▲ まちなか水路沿いのフットパス

推進室の一員となって

東北圏広域地方計画推進室 副室長 立花 義則

（東北地方整備局 企画部 環境調整官）

4月1日付けで副室長に着任しました立花と申します。よろしくお願いいたします。

昨年度は企画部の機械施工管理官として新技術や機械関係の業務に携わっておりました。

4月からは広域地方計画（平成 28 年 3 月 29 日国土交通大臣決定）を担当するというところで、震災復興、防災、産業振興、観光、物流、社会基盤など様々な視点で東北圏全体の計画に携わらせていただきます。

改定された広域地方計画では東北圏の将来像として震災復興を契機に国内外に誇れる防災先進圏域の実現を図るとともに、日本海・太平洋2面活用による産業集積、インバウンド増加により、人口減少下においても自立的に発展する圏域を目指すこととしています。

計画の実効性を高めるため、関係機関の皆様のご指導・ご協力をいただきながら微力ではありますが計画の推進に取り組んで参りますので引き続きよろしくお願い申し上げます。

編集後記

皆様、ゴールデンウィークはどのように過ごされましたか。心身ともにリフレッシュされましたでしょうか。私事ですが、実家に帰省し田んぼの田植えを手伝いました。非常に疲れましたが、のどかな田園地帯に立つことでリフレッシュすることができました。

話は変わりますが、今月の担当者会議を皮切りに各種会議が続くことになると思います。東北圏広域地方計画の推進に向けて、引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp